

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	オンライン砺波C		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 17日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年 1月 17日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	オンライン砺波A、同砺波Bの視覚スケジュールを用いた習慣化の取り組みを踏まえて、児童の将来の自立をより強く意識した支援を行っていること。	・決まったスケジュールに沿って規則正しく過ごすなど、基本的な生活習慣の完全な定着(自走化)を図るとともに、係活動を通して人の役に立つ喜びを感じることができたり、責任感が育つ環境作りを行っている。	・基本的な生活習慣の定着の度合いに合わせて、施設での生活・活動の中で子どもたち自身が内容ややり方を決める部分を増やしていく。
2	土・日・祝日も営業していること。 ※現在土曜日は毎週、日曜日は月1回、祝日はすべて営業している。	・毎週土曜日にプログラミングを、月1回日曜日にゲームイベントを実施している。 ※土曜日は平日の通常の支援とは違い、習い事を中心に据えた支援を行っている。 ※日曜日のゲームイベントは、施設利用者とその家族の他、地域の一般の児童とその家族も受け入れた形で実施している。	・ゲームイベントを、家族の対応力の向上を図る場としても活用する。 ・ゲームイベント以外にも、家族や一般の児童が参加できるイベントを企画し、その場で児童同士、保護者同士のコミュニケーションが生まれるように働きかけていく。 ・日曜日を毎週営業する方向で調整をする。
3	デジタル機器を積極的に支援に取り入れ、ソーシャルスキルを育てる手段として活用していること。	・デジタルゲームを活用して、児童が他の子どもたちと一緒に楽しみながら、デジタル機器の操作に習熟し、同時に話す、聞く、理解するなどのコミュニケーションスキルを身に付けることができる環境を提供している。	・デジタル機器やゲームの操作に慣れ、ソーシャルスキルが身についた次の段階として、その知識やスキルを児童が将来の自立のために役立てられるよう、移行支援を行う体制を作る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	基本的な生活習慣の定着を図る日々の取り組みが、見方によっては活動プログラムの固定化と捉えられてしまうことがあること。	・決まったスケジュールに沿って活動しているため、活動の形式と内容を混同すると、活動そのものが固定化しているように見えるかもしれない。	・決まったスケジュールは習慣化のために必要であること、そのスケジュールの中での活動内容は児童の選択と決定に委ねられている部分が多いことを、折に触れて保護者に伝えていく。
2	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や利用児童の家族も参加できる研修会の機会提供が手薄であること。	・LINEを使つての相談支援などをこれまでで行ってきたが、それが一般にはペアレント・トレーニング等の家族支援と十分には見なされていないきらいがある。 ・比較的規模が大きいイベントや研修会は平日に実施することが難しい。	・ゲームイベントを、家族の対応力の向上を図る場となるように企画する。 ・ゲームイベント以外にも、家族が参加できるイベントを企画したり、家族を対象とする研修会を開催したりする。 ・日曜日を営業日として、そこで各種イベントや研修会を実施していく。
3	実際の支援の方法や子どもたちの活動の様子が利用児童の保護者や外部から見えづらいこと。	・モニタリングや面談時、また児童のお迎え時等に保護者に施設内を見てもらうことはあっても、子どもたちが活動している様子を保護者が見る機会がこれまでは少なかった。	・日曜日のゲームイベント等により多くの保護者や一般の児童・保護者に参加してもらえるよう働きかける。